

毎日更新! クック諸島ブログ
<http://ameblo.jp/cookisland>

昨年2010年の7月はクック諸島のマンガイアという島で皆既日蝕が観測できるということで日本からもたくさんのお客様がクック諸島に来て下さいました。あれから早一年。今でもマンガイアの滑走路に並び空を見上げていた世界各国のお客様の顔が目には浮かびます。今年は日蝕はありませんが先月6月から今月にかけてクック諸島は大変忙しい時期を迎えています。クック諸島は南半球の冬である時期にニュージーランドやオーストラリアの人々が避寒地として訪れることが多く、ピークシーズンは4月から10月、6月から9月はその中でも特に旅行者が増える時期とされています。先月にはチリからの火山灰によりPacific Blueのラロトンガ、ニュージーランド間のフライトが何便かキャンセルになったことや、今月始まったシドニー、ラロトンガの直行便の開始もあり、ラロトンガには旅行者が溢れ、どのホテルも部屋が満室という状況が続いていました。先月クック諸島を訪れた旅行者数はなんと1万人を越えていました。全体の旅行者の76%を占めるニュージーランドに続き、ヨーロッパ諸国、ポリネシアの国々からの旅行者の増加が目立ちました。ちなみに日本を含むアジアからのお客様は53名でした。レジャーツアーはもちろんのこと、地元のレストランやバーも大変忙しく、賑やかです。



今年もやってきました。

クジラの季節到来!

先月6月30日、ラロトンガで今年初めてのザトウクジラが発見、観測されました。毎年6月の末から9月はラロトンガのクジラの季節と言われ、地元の人々も観光客もクジラを観測するのが大変楽しみにしています。



ラロトンガのホイール・レイディーとは?!

この写真の素敵な女性は、アメリカ出身のナン・ハウザーさん。世界で知られるクジラの研究者です。彼女は一年の半分以上をクック諸島のラロトンガで過ごし、クジラがやってくる7月から9月の間は毎日のように海に出てクジラを観測し群れの移動を察知するためのタグをつけたり、DNAサンプルをとったり大忙しです。彼女がラロトンガを研究の本拠地としてからもう14年が経ちます。今年はクック諸島の海がクジラの保護海域に認定されてからちょうど10年目の記念の日だそうです。保護海域認定を政府に薦めたのもナンさんでした。その頃は日本の捕鯨船が太平洋やアフリカの小さな国々から捕鯨権を買収しようとしており、クック諸島の人々にその問題を理解しクック諸島のクジラを守りたいという思いを強めるために提案したそうです。クック諸島は南太平洋で最初のクジラ保護海域として認められ、その後フレンチポリネシアやニューカレドニアが続いて保護海域に認定されました。ナンさんのクジラ研究家、また環境保護を呼びかけるアクティビストとしての活動は世界各国のメディアにも大変注目され、現在も2人の映画監督とともにドキュメンタリー映画を作製しているそうです。

彼女のクジラセンターへ!

クジラの骨の展示



ラロトンガには彼女が企画し経営している Whale and Wildlife Centreがあります。壁一面に描かれたユニークなタッチのクジラの絵が目を引きます。今年からは展示場だけではなくカフェとお土産屋さんもオープン。展示場のスペースは小さいながら何時間居ても飽きないバラエティに富んだ内容になっています。捕鯨の歴史や自然現象や環境の変化がクジラにもたらす影響、世界にいる鯨の種類やそれらの大きさ、ラロトンガで観測できるザトウクジラの生態や彼女がラロトンガに来てから関わったクジラの救出劇などクジラに関する事なら何でも学べることがもちろん読み物だけでなくディスプレイも充実。鯨を使って作られていた昔の商品の数々(鯨の脂を使った石鹸や骨を使った装飾品など)、捕鯨に使われていた武器や道具、大きなクジラの骨など貴重なものがそろっています。ここで学べるのはクジラについてだけではなく、ラロトンガに住む海や川の生き物、鳥、植物、スキューバダイビングの歴史など興味深いものばかりです。実際に生き物を見ることが出来るコーナーにはびっくりして飛び上がってしまうほど大きなヤシガニがいます!隠れた観光スポットです。



印象的なクジラの絵

TE MAEVA NUI

今週金曜日からクック諸島で最大のイベント、Te Maeve Nuiが始まりました。Te Maeve Nuiはクック諸島がニュージーランドから自治権を獲得した1965年8月4日の建国記念日を祝うお祭りで、9日間に渡ってあらゆるイベントが行われます。中心街で行われるフロート(神輿のようなもの)のパレード、マーケットデイや村・島対抗の歌、ゴスペルの大会などがあります。その中でも最も盛り上がるのは2日間に渡る村・島対抗のダンスの大会です。毎年ダンスのテーマが決められ、それぞれのチームはクック諸島の歴史や文化を交えてユニークなパフォーマンスを繰り広げます。ラロトンガ以外のクック諸島の島々から勝負をかけて歌やダンスのチームがやってきたり、ニュージーランドやオーストラリアに住んでいるクック諸島の人々も地元チームに参加するために帰ってきたりします。この行事は旅行者ではなく地元の人々の為のお祭りなのでとてもロカル色が強く、大変盛り上がりがあります。



今月のリゾート: Muri Beach Resort



カップルや家族での旅行を考えている方におすすめのリゾートです。全20棟のユニットはムリビーチの一角にプールを囲むようにできておりリゾート全体がとてもアットホームな雰囲気。視察に行ったときもプールでは子供たちが元気に遊び、その横のカフェからコーヒーを片手に両親たちが見守るというのんびりした光景が見られました。それぞれのユニットにはフルキッチン、DVDプレーヤーなどが完備されており長期滞在にも最適です。去年に入れ替えたばかりという家具やインテリアは白を基調としておりシンプルでお洒落です。部屋にある絵画や写真にもオーナーのセンスが光ります。ここがおすすめのもう一つの理由は日本人には特に嬉しいバスタブ。全てのバスルームにジャグジー、加熱機能のついたバスタブがついています。

↑家庭的な雰囲気のラウンジとベッド

↑日本人には嬉しいバスタブ



美しいムリラグーンを一望できるテラス

クック諸島面白情報☆第七回『記念すべき? 日刊紙が』カラーに!』

月曜日から土曜日まで毎日発行されるクック諸島の新聞、Cook Islands News。地元イベントや人々、スポーツを多く取り上げるまさに地元密着型の新聞です。なんと、この白黒だった新聞が先々週の日曜日からフルカラーになりました!なのに値段は変わらず!NZ\$2.00。一面には「カラーになりました!」という記事と鮮やかな衣装を着たダンサーの写真。「カラーでの広告出ませんか?」という募集の記事も載っていました。他に一面に載せるべきニュースが無いなんてとても平和だと思いませんか。しかし、考えてみるとその一刊以来、一度もカラーの新聞が発行されていません!話によると海外からプリンターなどが届いて、印刷者のトレーニングが終わるまで待っているのもう少し時間がかかる、とのこと。現在唯一のカラー紙は初めてのテスト印刷だったのです(^_^)

ラロトンガ島内マラソン RRRR絶賛受付中!

